

随想

見習えないドイツ

(株)PPQC研究所 加藤 宏光

著者が高校在学の時、化学を教わった先生が変わり者だった。あだ名はタヌキ、あだ名どおりにタヌキっぽい風貌で飄々と語る。そのタヌキ先生がドイツについて教えてくれた。

「ドイツはすごい国だ。まず、世界を相手に二度も大戦を起すだけでもなかなかできない。敗戦後、第一に国がかけたのは、道路等ベースになる公共構造の整備。システムを構築するのに将来像を前提とし、道路を整備、ガスや水道等々の公共設備を最優先に完成させて、これでよし、と建物等、街の上物を作り上げていった。日本等

は、敗戦後バタバタと場当たり民間に無施策に復興するから街に統一性がない。何かを進めるのに、最初に出来上がりの像を基にシステムの進めることをもつと学ばねばならない！」といった話が出た。

このタヌキ先生は、アルファベットを除けば、黒板に書く文字のメインはカタカナである。何故か?! タヌキ先生は説明する。

「将来はコンピュータ時代となるのは間違いない。第二次世界大戦中に、アメリカが開発した《エニアック》というコンピュータは真空管の作動で動く

もので、何万本もの真空管とそれを冷却する装置は、このビル(高校の本館ビル四階建て)ほどの大きさであった。現在はトランジスタの発明で、小さくなってきたるけれど…。そして、コンピュータはカタカナしか表示できない。諸君は近い将来コンピュータを使う際にカタカナに慣れておかなければならない。そのために、私はできるだけカタカナで書いている」云々。

また、ガソリンの公害について「ガソリンには鉛が入っている。これは人間にとつて毒である。子どもの頃は、私はガソ

リンの匂いが好きで、自動車を通ればクンクン匂いを嗅いでいた。しかし、鉛の毒を知ってから、自動車を通ればしばらく息を止めている」とも話していた。社会に出て程なくした頃には、コンピュータが云々されるようになり、確かにカタカナしか打ち出せなかったし、排気ガスの公害が声高に叫ばれるようになっていた。親しかった友達と「あの時はバカにしていたけど、タヌキ先生の先見の明は大したものだったんだな〜！」等と思いついていたものであった。戦後の復興にしても、ドイツのそれはいかにも目覚ましかった

た。当時のソビエト連邦が成し遂げた人工衛星とロケットや恐まわしい原子爆弾もドイツから亡命した科学者のものを基礎にしていることを知った時、社会人として、自動車文明になじんで、高級車の多くがドイツ車であることを認識した時、《ドイツ》の特別感は何もなかった。二〇二四年十二月に《ドイツの失敗に学べ!》(川口マーン恵美、注1)というタイトルの本を読んだ。《ドイツの失敗》との言葉が、先に述べたタヌキ先生の教えと乖離しているのにひかれたからかもしれない。内容を簡略にまとめると、メルケル元首相が指導した一六年の間に、ドイツはソフトな全体主義に移行し始めている、という。根拠を列挙してみる。

・メルケル元首相による「難民ようこそ政策」による多くの難民移住とそれによる血縁犯罪組

織形成

・極右とされるAfD(注2)を抑制したいBSW(注3)との対立で《後者は東ドイツを主体とする》社会は混乱しているにも関わらず、国を指導すべき社会党、緑の党さらに自由民主党はそれぞれ支持を失い、BSWがAfDを攻撃するのを奇貨として自分たちの立ち位置を維持することに嬉々としている(どこかの国とイヤに似ていると思うのは著者—私—だけか?)。さらにAfD派の弾圧は旧東ドイツの恐怖政治に酷似する、とも指摘している

・ヨーロッパで巻き起こる反EUの農民デモ《役人の厳しい規制管理へ対応しきれずに、泣く泣く離農するヒトが多い(EUではエリートの特権エグゼクティブばかりで、EUを良くしようという努力がほとんどない)》
・ドイツの公共インフラは老朽

化しポロポロ、政権が一六年も続いた前首相メルケルは、EUで一人勝ちといわれた好景気時代には内需をおろそかにし、国防費を切り詰め、警察を縮小し、長期的展望で成果を求める国土強靱化にはほとんどお金を使わなかった

るなら、そしてそれが正しいなら《わが国はよほど心してかからねば将来が見えない》と、そら恐ろしくなる。

・教育の劣化等で、ドイツの国際競争力は二四位にまで落ちている
この本で指摘しているドイツの実力や汚点はまだまだ続くが、著者が高校生時代に懂れていたドイツをその後間もなく追い付き追いついた日本が《ジャパン・アズ・No. 1》を自認するに至ったこと、さらにバブル崩壊を経て経済を三〇年の長きにわたって低迷させ、現状のポロポロに仕上げた歴史となんと似ていることか!!

この書物を書いた川口氏は、ドイツが現実の日本以下と判じ

注1: 作家、日本大学芸術学部卒、一九八五年シユトウツガルト音大大学院ピアノ科修了、二〇一六年の『ドイツの脱原発がよくわかる本』(草思社)等を執筆。

注2: 極右、国家主義会派から派生したドイツのための選択肢という党で、現在は与野党や官公庁、司法を巻き込んで、民主主義を護るという建前で弾圧されている(らしい)。

注3: Bundnis Shara Wagenknechtの略で、代表者ザーラ・ヴァーゲンクネヒト(共産主義者)の名前を冠した極左政党で基本的に共産主義。